

籾水分情報 Vol.6

令和6年8月30日
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まっています。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稻ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう。

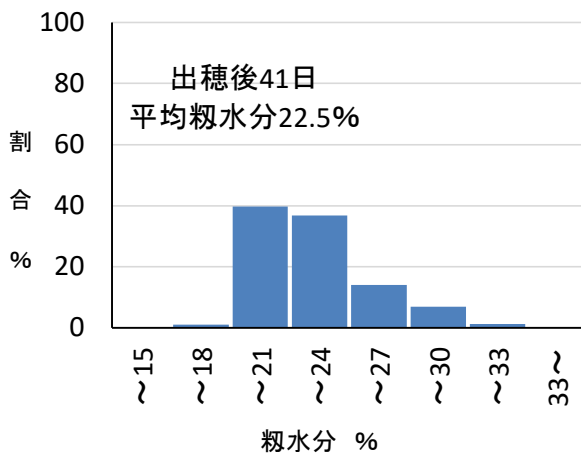
8月29日現在の状況

◎ 5月1日植「コシヒカリ」

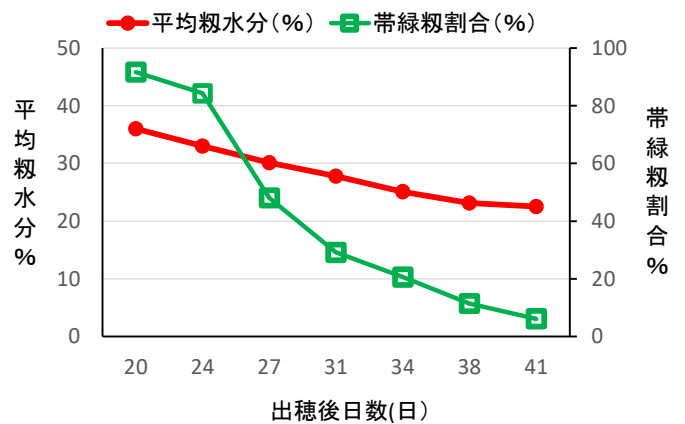
(出穂期：7月19日、出穂後41日、出穂～測定前日までの積算気温 1202℃)

- 籾水分の平均値は連日の降雨により前回調査と同等の22.5%です。しかし、単粒の籾水分は24%以下が約8割、その内4割以上が21%以下迄低下しています。帯緑籾割合は6.1%、出穂～測定前日までの積算気温は1202℃といずれも収穫適期の目安を過ぎています。速やかに収穫作業を行いましょう。また、収穫後の過乾燥は胴割粒や水浸割粒（精米を水に浸したときに割れる粒）による品質低下の要因となるため注意しましょう。今後数日は降雨が予想されています。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。

*5月1日植「コシヒカリ」の情報提供は今回で終了します。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移



○5月1日植「コシヒカリ」、出穂後41日（8月29日）の玄米（篩目1.8mm）

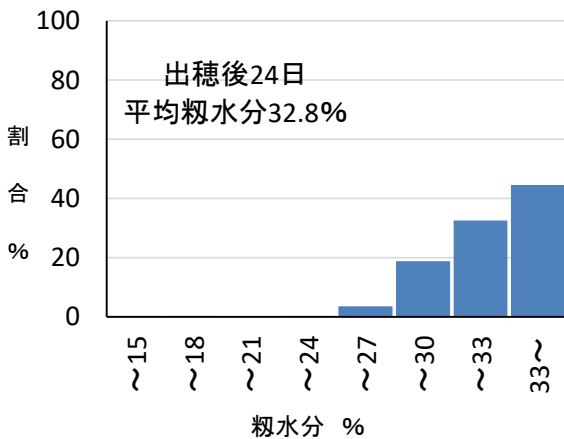
*（参考）早期栽培「コシヒカリ」の収穫適期の目安

登熟積算気温950~1150℃、帯緑粳割合15~10%

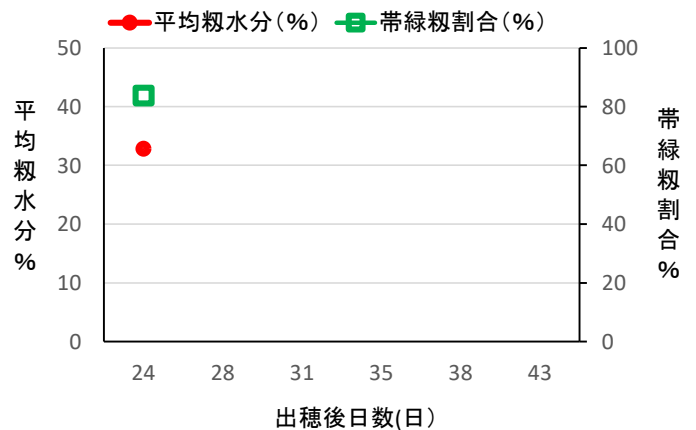
◎ 5月29日植「彩のきずな」

（出穂期：8月5日、出穂後24日、出穂～測定前日までの積算気温679℃）

- ・ 粳水分の平均値は32.8%と高く、単粒の粳水分にばらつきがみられますが、27%以下のものはほとんどみられていません。



○粳水分の分布



○平均粳水分、帯緑粳割合の推移

*（参考）早植栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安

登熟積算気温900~1200℃、帯緑粳割合50~10%

* 単粒水分の測定方法：午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔粳を除いた粳を単粒水分計により測定（2反復）。

* 今後、情報提供予定の品種：5月21日植「彩のかがやき」→9月6日から提供開始
6月25日植「彩のきずな」→9月10日から提供開始